

平成21年度第2回九州身体障害者陸上競技協会理事会報告

日 時：12月19日（土曜日）10：45～12：45

場 所：熊本機能病院（会議室）

〒860-8516 熊本市山室6-8-1 Ⅱ：096-345-8111

出席者：前田理事長、小川副理事長、松尾理事、岩下理事、三雲理事、

当日欠席者：天候不良の為（吉松副会長、矢野理事、渡辺理事、安藤監査、）

欠席者：委任状提出

小手川副理事長、副島理事、廣道理事、土井理事、伊東理事、松永理事

宇栄原理事、上与那原理事、

委任状なし：高田監事

事務局：山本

議 題：（1）平成21年度の第3回ワークショップ（合同練習）の開催について

例年通り、九州チャレンジ陸上競技選手権前日（20日）午後に熊本県総合運動公園陸上競技場（KKWING）で実施する。ただし、懇親会は実施しない。また、大会前なので各自の調整トレーニングを主とし、指導やサポートは希望があれば行う。当協会会員特権として指定ホテル（熊本テルサ）の宿泊料金を格安とする。年明け早々に会員へ案内することで承認を得る。

（2）寄付、助成金の報告と活用方法について（陸上教室の開催）

新日本製薬株式会社様と株式会社大広様からの寄付と、福岡シティーマラソン大会における募金活動の収益金を活用し、年度内にジュニア用レーサー2台と初心者用レーサー2台（ジョギング仕様）を作成する。また、余剰金は作成したレーサーで陸上教室を開催し、選手の育成及び普及を行っていく。レーサーは事務局（熊本県）に保管し、貸し出しを行う。なお、貸し出しについては、簡単な申し合わせ基準を作成する。基準については次回の理事会で提案、検討していくことで承認を得る。

（3）2010大分陸上開催について

大分陸上2010を6月6日に開催する事を承認する。なお、今回の大会はIPC公認となる。

報 告：（1）九州身体障害者陸上競技協会のあゆみについて

前田理事長より11月22日の選手強化セミナー（福岡市障がい者スポーツセンター主催）で使用したパワーポイント配布資料にて、当協会の設立からこれまでの活動実績、会員及び賛助会員の登録状況等の説明があった。また、今後の課題として①会員の増員、②会員のニーズに応じたワークショップのあり方、③会員への還元、④サポート体制（賛助会員との連携）⑤財源確保などを提言され、皆さんと一緒に取り組む決意を延べられる。

（検討事項）（2）九州身体障害者陸上競技協会の賛助会員の登録について報告

今年度の賛助会員の登録状況（37名）を報告し、今後も身体障害者の陸上に興味、携わっていただける人材を増やし、当協会の活動を支えるサポート体制の確立を図る必要であることを再確認する。

(3) 平成21年度の第1回ワークショップの報告

鹿児島県で行われた第1回ワークショップの報告がある。

特徴として立位を中心にした講義と実技講習会が行われた。参加者からは大変好評であった。また、講義資料も充実しており車いす会員へも大変参考となる物である。必要の方は事務局に連絡すると提供可能である。

(4) 第13回九州チャレンジ陸上競技選手権大会

平成22年3月21日に熊本県総合運動公園陸上競技場（KKWING）で実施される。今回はアジアパラゲームズ（中国の広州で開催）と世界選手権（ニュージーランドで開催）の選考の参考大会となる。その為にIPC公認となる。また、九州身障陸協が当大会の協力団体でもある。

(5) IPC公認の国内大会および世界選手権について

日本身体障害者陸上競技連盟は、アジアパラゲームズ（2010年12月に中国の広州で開催）と世界選手権（2011年1月にニュージーランドで開催）の開催にあたり国内で開催される九州チャレンジ陸上競技選手権大会（3月）、日本身体障害者陸上競技選手権大会（5月）、大分陸上2010（6月）、関東身体障害者陸上競技選手権大会（7月）、ジャパンパラリンピック陸上競技選手権大会（8月）をIPC公認大会として申請する予定である。

(6) HPの充実の協力について

当協会のホームページは当協会の存在アピールと会員及び賛助会員への情報提供の活動として役割を果たしている。年間約47,000件のアクセスを得ているが、今後も引き続き充実を図って行く必要がある。今後も皆さんの情報提供をお願いしたい。

(7) 機関紙発行について

小川副理事長が機関紙を作成していただき、今回が5号の発行となった。今後も継続を行う皆様のご協力をお願いしたい。

(8) その他（今後の九州協会のあり方）

前田理事長から当協会のあゆみとして報告あった中で今後の課題として掲げられた5つの項目を今後どのように取り組み、改善していくかが重要である。

①会員の増員：陸上教室の開催を各県で開催していく努力を行う。当協会には資金及び教材（レーザー、グローグ等）更にマンパワー（講師、スタッフ）の協力を行っていく。今後の開催に向けて具体的な調整が必要である。

②会員のニーズに合ったワークショップ（合同練習）：多くの会員の意見を収集し、希望に添った企画、運営を実行する。可能であればワークショップ担当委員会等を立ち上げ検討していくなどの試みが必要ではないか？

③会員への還元：現在も会員への還元として登録手続き、HPの公開、機関紙の発行、ワークショップ（合同練習）の開催、必要に応じ情報提供など行っている。今後は、より直接的なメリットとして大会参加者への参加費の助成及び旅費等の助成を検討する必要がある。

④賛助会員、サポーター体制の強化：今後も賛助会員の増員と当協会の活動への積極的な参加協力をお願いしていく。現在の賛助会員は九州地区の障害者スポーツ指導員（中級・上級）の方を対象としている。今後は初級でも陸上競技に興味のある方を取り入れていく必要がある。

⑤財源確保：現在、当協会の公式スポンサーとして3社のご協力いただいている。しかし、今日、社会情勢が厳しい折から今後も継続の期待ができる状況ではなく、安心できない。今後は小額でも多くの協力企業及び協力者(賛助会員)を募っていく必要がある。財源がなければ当協会の課題も改善できない事になる。会員の皆様も意識を持って協力を頂きたい。

(9) ランキング制度の検討

当協会の会員内でランキング制度確立したら？との意見があった。ランキング制度により日頃の練習及び大会に意気込みが出るのではないかな。また、個人個人の目標になるのではないかな。などの意見が出る。しかし、その反面、すべての会員が競技として取り組んでいるわけではなく、健康として、リハビリとして、ストレス発散等の目的を持って行っている会員が多く存在し、大会参加状況もまちまちであることから公平な評価が難しいのではないかな？などの意見もあり、引き続き検討を行っていく事になった。

そ の 他： (1) 第2回ワークショップの内容と参加申し込み状況

今回のワークショップは、トラック競技のオフシーズンという時期的（12月19日、20日）な配慮と、時には自分自身の身体を知る機会を提供する目的で、熊本機能病院様の全面協力のもと体力測定を実施する事になった。測定可能枠20名に対し16名の希望者があった。募集後に募集の方法に改善が必要であったことを反省する。また、今回のワークショップに不可欠な測定助手としてリハ専門学校の学生に協力いただくことになり、交通費として一人2000円を支給する旨、承認を頂く。

(2) NTOについて

日本身体障害者陸上競技連盟の競技運営委員会が国内技術委員の養成として講習会を開催する事になった。詳細は近日中にHP等で明らかにして募集を行う。